

いわき市教育委員会

研修だより

いしずえ
礎

研修だより 第15号

平成27年 3月10日

発行所
いわき市教育委員会
発行責任者
教育長 吉田 尚



「 授業の改善 」

いわき市教育委員会学校教育課
課長 草野 仁

「子どもを中心に据えて、子どもにとってわかる授業づくり、わかって勉強することが楽しい学校づくりのために、授業の質的改善が求められる。」

これは、10年程前の研修だよりに、「教育の礎石」という題で掲載されている文章の一節です。当時私は、学校における様々な課題を解決する過程で、子どもたちの成長にとって、日々の充実した授業が何より大切であるとの思いを強くしていたので、「法隆寺の礎石」にたとえて授業の質的改善の重要性を訴えるその文章の内容に、とても共感を覚えました。

さて、昨年11月に文部科学大臣から中央教育審議会へ、「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について」諮問が提出されました。その中では、「何を教えるか」という知識の質や量の改善はもちろんのこと、「どのように学ぶか」という、学びの質や深まりを重視することが必要であるとの方向性が示されています。そして、学びの質や深まりを保証するためには、課題の発見と解決に向けて主体的・協働的に学ぶ学習、いわゆる「アクティブ・ラーニング」の指導を充実させていく必要があると明確に述べています。このような「能動的な学び」は、知識・技能を定着させる上でも、また、子どもたちの学習意欲を高める上でも効果的であることは、科学的な知見からも明らかです。

いわき市教育委員会が行っている生徒会長サミット事業では、講師を招いてのワークショップ型研修、各種派遣活動や全体ミーティング等を開催し、先進的な取り組みとして全国的にも注目されています。生徒会長サミットのそれぞれの活動において重視しているのは、子どもたちが自ら課題を発見し、その解決に向けて主体的・協働的に探究し、学びの成果を自分なりに咀嚼してまとめ、自分の意見も加えて発信（アウトプット）することです。様々な要因があると思いますが、当該事業を通じた子どもたちの成長には目を見張るものがあり、講師として関わった文部科学省の職員をはじめ、医師やアスリートなど様々な分野の方々から、高い評価を得ております。生徒会長サミット事業の柱の一つである「アクティブ・ラーニング」（能動的な学び）の手法は、学校現場でも授業をはじめとする様々な教育活動の中で、取り入れることができるのではないのでしょうか。

これまでも、そしてこれからも、社会環境の変化が急速に進む中で、授業の質的改善が求められることは必然であり、教員にとっての研修は、自身の授業力や指導力を向上させるためのみならず、子どもたち一人一人の未来を生き抜く力を保証するためにも重要であり、自発的にそして必要性や目的を自覚して研修に臨むことが求められます。

いわき市体験型経済教育施設【E l e m】 ～未来に向けたいわきの人づくりのために～

1 体験施設の概要

「お父さんやお母さんは、毎日こんなに大変なことをやっているの!？」

本年度から供用を開始しました、市体験型経済教育施設E l e m(エリム)での学習中に子どもたちから聞かれる言葉です。

中東の国カタールが震災からの復興支援を目的に設置した「カタールフレンド基金」。そこから資金援助を受けて建設した本施設では、協賛企業の協力をいただき、小学校5年生と中学校2年生が施設内に再現した「街」の中で、社会の仕組みや経済の働きを体験学習する、「スチューデント・シティ」及び「ファイナンス・パーク」の両プログラムを実施しています。

両プログラムとも、「総合的な学習の時間」に位置付けられた授業として実施するものであり、学校での事前学習8時間、施設での体験学習6時間、学校での事後学習1時間を標準とした、計15時間の学習となっています。



2 スチューデント・シティの体験活動

小学校5年生を対象としたスチューデント・シティの体験学習では、施設2階に設置した店舗や市役所などに「就職」し、ものやサービスを提供する側（生産・販売者）と受ける側（消費者）とを同時に体験することで、「社会は仕事を通じて相互に支え合うことで成立している」ことを学びます。

スチューデント・シティでの活動中は、子どもたちは小学校5年生ではなく、「大人」として活動します。言葉遣い、接客態度、様々な書類の記入、販売目標の設定、販売促進の手法など、普段の生活との違いや、分からないことの多さに戸惑いながらも、企業ボランティアや保護者ボランティアの方々に支えられながら活動し、1日の中で驚くほど成長していきます。

3 ファイナンス・パークの体験活動

○小学生の感想から

スチューデント・シティの活動で、仕事は大変だったけど、お客さんの笑顔を見るたびに「この人たちのために働きたい」と思った。人と接して、笑顔にする、笑顔になれる仕事をしたい。

この経験であいさつや返事の大切さが分かった。これからもしっかりあいさつや返事をしたい。また、礼儀正しく生活することや、お客様への対応、話し方など今回学んだことを生かし、立派な大人になれるように、日頃からの生活を大切にしたい。

○小学生保護者ボランティアの声

普段の生活では見ることができない、真剣な表情で仕事をしている姿には感動させられた。どの会社で働く子どもも同じで、最後に達成感あふれる顔を見た時には、思わず涙がこぼれてしまった。感動的な1日だった。



○企業ボランティアの声

心がけているのは、一人一人を大切に、その個人に合った援助をしていくことです。最後の社内会議では、一人一人の頑張りや称賛の声をかけるようにしています。そこには、仕事をやり終えた満足感、達成感にあふれた子どもたちの顔が並んでいます。1日の中でこれほど感動を味わえる自分は幸せです。

中学校2年生を対象としたファイナンス・パークでは、収入や税金・家族構成など与えられた条件の中で、生活を成立させるために必要なコストを計算し、「選択と意思決定」を行う力を育むことを目的とした体験活動を行います。8時間の事前学習で学んだことを単なる知識の蓄積として終わらせるのではなく、実際に活用しながら、問題解決能力を育成する場も提供します。



○中学生の感想から

ファイナンス・パークの体験学習当日までは、ただ計算をしていけばいいと思っていたけど、それぞれの条件を検討し、自分の生活条件やそれに応じた予算の中で意思決定をするのはとても大変でした。生活していくには、たくさん妥協していかなければならないことがあると気づき、とてもよい経験になりました。小さい頃から自分の分まで人生設計をしてくれた両親に感謝しなければならなかったと思いました。人生には、これよりももっとたくさんのことを選択しなければならぬ時がくると思うので、それに備えて今の段階で少しでも体験できて本当によかったと思います。

事前学習は大変だし、計算などが多くて、当日どうなるかと思いましたが、実際に体験してみると楽しく学ぶことができ、よい思い出になりました。やり始めるとあっという間で、2時間を休みなく活動していました。全然飽きず、計算も学んだことを生かしたり、話を聞いたりすることもでき、スムーズにできました。将来のためにどうするのかということも学べてとてもためになりました。仮の設定で、こんなに時間や頭を使うということは、大人になってからは、さらに自分で考えていかなければならず大変だと思いました。また、親のことを思い、もう少し節約した方がいいのかなとも思いました。今回の機会を通して、色々な事を見つめ直し、たくさんのことを経験していきたいと改めて考えることができました。

○中学生保護者ボランティアの声

当日までは何をすればよいのか不安でいっぱいでしたが、朝の事前打合せで丁寧な説明をいただき安心して子どもたちと学習をすることができました。仮の施設とはいえ、子どもたちには、自分で働いて収入を得、それを元に家族を養う大変さを少しでも理解してもらえたのではないかと思います。私も、ここまで詳しく人生（生活）設計を考えたことがなかったので、とても楽しく、有意義な体験をさせていただきました。

ぜひ、多くの保護者さんにも体験していただけるとよいと思います。

生徒たちと一緒に体験することで、今までの自分の生活を振り返ることもできました。将来の生活設計を考えることは、とてもよいことだと思います。今回の経験をきっかけに、家でも生きたお金の使い方を子どもと共に学んでいけたらと思います。



4 活動見学

スチューデント・シティ及びファイナンス・パークでの体験活動は、随時見学が可能となっております。26年度は、たくさんの小学校・中学校の先生方が他校の活動の様子を見学し、自校の事前指導に生かしております。

ご希望される学校は、事務局までご連絡ください。（電話：84-8780）

いわき市教育委員会専門研修 授業力向上講座では、経験年数に応じたニーズに合わせて、基礎→実践→応用の段階を踏まえ、Ⅰでは基礎的な授業設計、Ⅱでは教科の特性を生かした実践的な内容、そしてⅢでは、筑波大学附属小・中学校などで、先進的な授業研究にあっている各教科の先生方を講師として招いて、より専門的な内容を扱う講座を実施しました。

研修で学んだことをどのように実践に生かしているか、2名の先生にお話を伺いました。

授業力向上講座Ⅰ・Ⅱ(小学校算数)

～算数のよさを実感できる子どもに～

大野第一小学校 齋藤 環 先生

Ⅰでは、いわき教育事務所指導主事 菅家章一先生より、学習指導要領と照らし合わせた教科の本質を、Ⅱでは、田人小学校教諭 矢野浩先生より、具体的な実践事例を盛り込みながら、教師自身が算数の楽しさ、不思議さに引き込まれる講義・演習を実施していただきました。



○ 受講した理由

私は、子どもの頃自分が感じた「解けた時の嬉しさ」を子どもたちにも感じてほしい、そして「算数は面白い」と思ってほしいという願いを持って授業をしています。しかし、それは、「算数ができる」ことが前提となっています。算数があり、面白いと一人一人が感じる授業ができるよう、そのヒントを得たいという思いから受講しました。

○ 講座に参加して

学習指導要領に立ち返ることにより、授業が一人よがりになっていないか、これまでの自分の授業を振り返るよい機会となりました。また、算数の面白さにどっぷり浸ることができ、改めて算数の楽しさを子どもたちに感じてほしいと思いました。

○ 受講後の取り組みについて

子どもたちが目的意識を持って算数的活動に取り組めるよう、「だってね」という言葉を引き出すことを毎時間意識するようになりました。「だってね」の後に自分の考えを図に描きたくなる、続けて言葉で説明したくなる、そういった主体的な算数的活動につながる発問を心がけています。

○ 目指す授業づくり

今回の講座で「子どもたちは、様々な活動を積み重ね、算数について感じ取っていく。そこに教師が価値付けをすることで、子どもたちが感じたことが『算数のよさ』につながる」という話が印象に残りました。子どもたちの気付きを大切にしながら、算数のよさを実感できるような授業づくりを目指していきたいです。

授業力向上講座Ⅱ(小・中学校体育)

～運動の楽しさを体感できる授業を目指して～

大野中学校 上遠野 大志 先生

午前の部は、県教育委員会との共催で、県教育センター指導主事 小林真一先生による「運動身体づくりプログラム」についての研修でした。午後の部は、エクスペディションDSの齋藤侑希先生により、ダンス指導の実際についてご指導をいただきました。

○ 受講した理由

運動が得意な生徒と苦手意識を持っている生徒の差が大きく、また運動能力の低さも課題となっています。本講座を受講することで、指導方法の新たな発見や指導者としての意識改革を目指して受講しました。

○ 講座に参加して

「運動身体づくりプログラム」は、中学校の授業の中でも十分活用することができることがわかりました。本講座受講後に、さっそく学校で取り入れたところ、どの生徒も笑顔で楽しく取り組めるようになり、主運動に移行した後も、授業への意欲が向上したと感じています。

また、ダンスは男子に抵抗感が強く意欲的に取り組ませることが難しい種目

でした。しかし、研修で学んだステップや踊り方を生徒と共に実施したところ、意欲的な取り組みが見られ、授業内容をアレンジして文化祭で発表したダンスは、大変好評で生徒も満足感を味わうことができました。

○ 目指す授業づくり

研修で学んだことを自分の中でしっかり習得し、生徒一人一人に合った授業を提供していきたいです。また、運動の楽しさやすばらしさを理解させ、体育が少しでも好きな生徒が多くなるよう努力していきたいと思います。



道徳教育実践講座

～自分の心と向き合える道徳授業を目指して～

高坂小学校 柏原 紘子 先生

道徳教育実践講座は、内郷第一中学校の佐藤一彦先生の授業を参観し、その授業を基に「道徳の時間の指導の在り方」について協議を行いました。研修で学んだことをどのように実践に生かしているか、柏原先生にお話を伺いました。

○ 受講した理由

道徳の教科化が検討されている中、改めて道徳教育について勉強する必要があると感じ、参加しました。初めての道徳主任でもあり、道徳教育の知識やスキルを身に付けたいと思いました。

○ 講座に参加して

授業参観では、中学3年生という多感な時期の生徒たちが、素直に自分の心と向き合っているのが印象的でした。協議会で佐藤先生が話した「生徒の思考が、ねらいとする道徳的価値から離れないように、資料・発問を十分に吟味した」という言葉から、資料選定と発問の工夫の重要性を学びました。「ふくしま道徳資料集」や「私たちの道徳」が配付されたことにより、これらの効果的な活用について悩んでいましたが、より多くの資料から、子どもたちの実態に合った資料を選定できると前向きに捉えることができました。

○ 受講後の取り組みと子どもたちの変化について

ねらいを明確にし、「一つの道徳的価値について、じっくりと考える45分にしよう」と意識し、教育課程を踏まえながら、複数の資料からねらいに迫るための資料を選ぶとともに、発問を今まで以上に吟味・精選するようになりました。

校内での道徳研究授業では、佐藤先生の授業を参考に、資料提示を工夫することにより、児童が登場人物の心情を自分自身のこととして考え、意欲的に学習に取り組む様子が見られました。

○ 目指す授業づくり

児童一人一人が、自分の心とじっくりと向き合うことができる道徳の授業を目指したいです。そのために、私自身がねらいを明確に押さえ、児童の問題意識を大切にしながら授業を行っていきたいと思います。また、資料を基に自分の問題として考えられるようにし、今回学んだ「子どもたちに合った資料を吟味すること」「道徳的価値に迫るための発問を精選すること」を大切にして道徳の授業に取り組んでいきたいです。

保幼小連携講座

～学びと育ちをつなぐ連携に向けて～

会場 いわき市立湯本第一小学校

保育所（園）や幼稚園入園から小学校卒業までの期間の子どもの成長について、園と小学校の先生たちが一緒に話し合うことは、子どもの成長を支える上でとても大切です。そして、幼稚園教育から小学校教育への円滑な接続を目指して指導方法を工夫していくことが必要です。そのためには、お互いの教育内容や指導方法について相互理解を深めていくことが重要となります。

今年度は、湯本第一小学校を会場に、湯本第一小学校、湯本第一幼稚園、明德館幼稚園の連携の取り組みを紹介していただきました。また、保・幼・小それぞれの先生方が、効果的な連携や課題について協議し、意見・情報交換をしました。



○ 受講者の感想

- ・ 入学への不安があこがれに変わる理想的な様子を見ることができた。年長組の子どもたちにとって必要なこと、身に付けておきたいことをきちんと準備し、小学校へ送り出してあげたいと思った。園でも小学校との連携について考えていきたい。（保育園）
- ・ グループ協議を通して、各幼稚園での取り組みや小学校入学後の姿など、実践を交えて話し合うことで、新たな知見を得ることができ、本当に勉強になった。（幼稚園）
- ・ 保育所・幼稚園と小学校、双方の先生方が、年に何回か話し合う場があれば、お互いの考えを知り、隙間を少しずつ埋めていけるのではないかと思った。小学校は、保・幼の実態をもっと知る必要があると思う。交流までいかななくても、保育参観を自然に行っていくことが理解につながると思う。（小学校）

「NetCommons」を使ったHP作成講座

○ 講座の概要

県教育センター
指導主事 渡辺義和先生、田野入秀浩先生を講師としてお招きし、「NetCommons」による Web サイトでの効果的な情報発信や活用力を高める講座を行いました。



○ 受講者の感想と取組み

御厩小学校 久野 俊一 教頭先生

「NetCommons」についての理解が深まりました。「作成の際、ワープロ感覚で更新作業ができること」「更新作業の分担ができること」という利点は、更新を容易にする大きな要因となります。本校では、これまで、HP 作成専用ソフトを使用し、特定の教員が中心となって HP を作成していましたが、研修後、作成の手順が簡素化されました。「NetCommons」の利用は、今後、同じ環境で、同じ手順で HP を作成することが可能なので、利用の仕方、システムの仕組みを多くの教職員が理解し、使い方に慣れることにより、様々な場面での利用が広がると思われます。

湯本第二小学校 武者 吉洋 先生

研修で画像の取り入れ方や自校サイトの修正・変更の仕方を教えていただき、学校独自のタイトルなどを工夫しています。また、写真を出るだけ多く取り入れ、見る人が分かりやすいように心がけています。そのほか、学校便りや災害時対応マニュアルなども PDF ファイルで掲載し、地域との連携も図っています。

藤間中学校 山上 ひとみ 先生

「NetCommons」は使い方がわかりやすく、だれにでも操作ができるため、各学年、各部活動、各校務分掌担当などから毎日 HP の更新をしています。また、更新する内容を決めているので、何を発信すればよいかを悩まずに済みます。本校の場合は、給食の献立、授業の様子、部活動の様子などを更新しています。

小学校外国語活動フォローアップ講座

会場	平第三小学校	高坂小学校
授業者	佐藤 正仁先生 Daniel (ALT)	奥山 吉範先生 Xan (ALT)

研修には、小学校の先生だけでなく、中学校の先生方、市教委所属 ALT も授業参観および事後研究会に参加し、ティーム・ティーチングの在り方についても全体で考えることができました。

○ 受講者の感想

草野小学校 板倉 恵一 先生

普段、英語力への不安から外国語活動の授業に消極的になりがちだったため、今回の講座を受講しました。提案授業では、児童の理解不十分な点を授業者が的確に捉え、ALT を立ち止まらせたり、補足説明を加えたりしていたのが印象的でした。学級担任が、得意不得意にかかわらず英語で ALT とのコミュニケーションを取りながら授業を進める姿が、児童の「英語を使おう」という意欲を高めることがよく分かりました。

事後研究会では ALT の気持ちに触れられたことが貴重な経験になりました。彼らも不安を抱え、担任からのフィードバックや担任とのコミュニケーションを求めていることが分かりました。今後は、打合せを密に行い、楽しいだけでなく英語力がつく授業を目指していきたいです。

好間中学校 浦島 佳子 先生

小学校の授業への興味と小中連携の必要性から今回の講座に申し込みました。提案授業では、授業者と ALT の普段のコミュニケーションがうまく取れていることがよく感じられました。目標が明確で、全員が達成できる無理のない内容でした。

事後研究会においては、小学校外国語活動の実態や指導内容について知ることができました。また、ALT と共に行う授業案づくりの演習は、様々なアイデアを彼らからもらうことができ、貴重な時間を過ごすことができました。「完璧でなくても、短い言葉でもいいからコミュニケーションしましょう」という彼らの言葉に、今後の接し方への安心感を覚えました。今回の研修を生かし、生徒たちにとって戸惑いのないスムーズな小中の移行ができるようにしたいと思います。

「放射線等に関する教育」・「防災・減災教育」
～子どもたちの未来のために～

○ 放射線等に関する教育

8月に小・中学校の教員1名を悉皆の研修として「放射線等に関する教育研修」を行いました。

各校からの課題としては、「専門でないので自信を持って指導できない。」「学習指導要領にないので、どう系統的な指導していいのかわからない。」などが挙げられました。

このような課題を少しでも解消し、放射線に関する教育が浸透することをねらいとして、午前は、いわき市としての放射線等に関する教育の取り組みや計画についての説明、いわき明星大学の石川哲夫先生による「科学的な理解をすすめる放射線教育」というテーマでの講義・演習を実施しました。午後は、福島県としての放射線教育に関する取り組み等についての説明、小・中学校の実践発表、最後に「放射線等に関する授業のすすめ方」についてグループ協議を行いました。

参加者からは、「いわき市としての計画が示されており方向性が見えてきた。」「具体的な指導方法を知ることができ学校で実践してみたい。」

「この講座をいわきの多くの教員が受講し、子どもたちの明るい未来のために、指導できるようになるといい。」といった感想が寄せられました。

○ 防災・減災教育

災害時において、自ら考え、互いに助け合い、生き抜くための知識と技能を身に付けた子どもを育成することが重要です。

7月に、生涯学習課の協力を得て、県教育委員会との共催で、「防災教育研修」を行いました。

教員の指導力の向上と各校における防災・減災教育の推進を図ることを目的に、防災ワークショップの学習体験を行ったり、県や市の防災教育推進についての講義、田人中学校の実践発表を基に、グループ協議を行ったりしました。

参加した多くの受講者から、「県、市の施策や実践例、防災学習プログラムの説明・体験など、とても充実した1日だった」「自分の学校の課題解決に役立つ研修であった」との声をいただきました。

不登校対策

～チャレンジホームの活動を通して～

○ 学校復帰に向けたエネルギーを蓄えて…

現在、いわき市にはチャレンジホーム（適応指導教室）が、4カ所設置されています。

チャレンジホームは、「いわき市内の小・中学校に在籍する児童生徒で、不登校の状態にあり、本人、保護者が入級を希望する者」（不登校児童生徒）が対象です。学校とは異なった雰囲気の中で、教育相談を受けながら、学習や集団活動を体験させることにより、集団生活への適応を促し学校への復帰を支援することを目的としています。

市内には、「学校に行きたくても行けない。」「今の自分を変えたくても変えられない。」というような状況に陥り、苦しんでいる児童生徒がたくさんいます。しかし、勇気を持って一歩踏み出し、チャレンジホームに通っている児童生徒もいます。

チャレンジホームでの児童生徒の様子を見ると「なぜこの子が？」と思うほど、活発に仲間と交流し活動している児童生徒が多くいます。月1回程度行われる合同行事（体験活動）では、4つのホームが集まり、自分の役割を持って自己の存在を実感しながら、ホームの枠を超えた関係づくりをしています。



このように、チャレンジホームでの経験を通して、学校に復帰したり、進路を実現したりしているのです。学校に行けるだけのエネルギーをまだ蓄えていない児童生徒もいますが、様々な人間関係や自分自身との葛藤の中で、もがき苦しんだ経験を基に、自分の中に新しいものを見つけようと頑張っている様子が見られます。我々教師や周りの大人たちが、そんな児童生徒の支えになってやれればと感じています。

ひろば

～平成27年度 研修の計画～

平成27年度の研修では、基本研修Ⅰに教職経験15年の教諭を対象とした「ミドルリーダー養成研修」を新設するなど、経験年数やライフステージに応じたキャリアアップをさらに重視した計画を立てました。主な研修・講座の新設及び内容の変更は以下の通りです。(詳細は、平成27年度研修計画をご覧ください)

基本研修Ⅰ

- 初任者研修・新規採用養護教諭研修・新規採用学校栄養職員研修、経験者研修Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、養護教諭経験者研修Ⅰ・Ⅱは通常通り実施します。
- 初任者研修は、H27年度より校内研修で30時間、校外研修で3日間縮小されます。それに伴い、H28年度より、2年次研修を計画しています。
- 教職経験15年を経過した教諭を対象に、ミドルリーダー養成研修を新設します。H27年度は、16・17年目の教諭を対象に実施します。
- 学校栄養職員経験者研修Ⅰ・Ⅲは、隔年実施のため、H26・27年度該当者について実施します。
- 学校栄養職員経験者研修Ⅱ、養護教諭経験者研修Ⅲは隔年実施のため、H27年度は実施せず、H28年度に実施します。

基本研修Ⅱ（職能研修）

- 「総合的な学習担当研修①・②」
スチューデント・シティ、ファイナンス・パークの実施時期により前後期に分け、①では前期実施校、②では後期実施校の小学5年、中学2年担当の教員を対象に、体験学習プログラムの進め方を研修します。
- 「常勤講師基礎研修」
【校外研修コース】と【校内研修コース】を設定しています。【校外研修コース】は、5月から6月のどちらかを選択して受講することになります。講師経験10年以上の常勤講師は、自校にあった研修を進められるよう【校内研修コース】の実施となります。

専門研修

- 教育課題研修
 - ・「学校組織マネジメント講座」(新設)
学校組織における若手の育成や組織の活性化に向けた実践的指導力と資質の向上を目的として実施します。H27年度は「コーチングを生かした若手人材の育成」がテーマです。ミドルリーダー養成研修該当者は悉皆となります。

- ・「図書館教育講座」(新設)

学校司書を有効に活用した図書館教育の効果的な進め方について考えることを目的とした講座を実施します。

○ 教科研修

- ・「授業力向上講座Ⅱ(実践)」

模擬授業等を通して授業の展開についての講義・演習を中心とした講座です。小学校におけるALTを効果的に生かした授業づくりを目的として、小学校「外国語活動」を新設します。

- ・「授業力向上講座Ⅲ(応用)」

思考力・判断力・表現を高める授業づくりに向けて、筑波大学附属小・中学校の先生方の実践に基づいた講義・演習を実施します。小・中学校での飛び込み授業を通じた研修も計画しています。小学校「外国語活動」を新設します。

H27年度の実施教科は次の通りです。

小学校：国語 算数 理科 社会 図工
外国語活動（新設）

(音楽・体育、図工は隔年実施。H27年度は図工)

中学校：国語 数学 理科 社会 英語

○ 生徒指導研修

- ・「学級経営実践講座」

グループエンカウンターやQ-Uテストなどを活用した児童生徒理解に基づく学級経営の実現や実践的な指導力の向上を目的とした講義・演習を実施します。

○ 情報教育研修

- ・「HP作成講座(『NetCommons』活用)」

学校 Web サイトによる効果的な情報発信力や活用力を高めることを目的として、「NetCommons」を使った Web サイト構築に向けた演習を実施します。

教員免許状更新講習

- 夏季休業中に行う講座の中から14講座(教科研修9講座、教育課題研修1講座、特別支援教育研修1講座、生徒指導研修3講座)を選択講習として開設します。